公益社団法人　全国老人福祉施設協議会

第75回

全国老人福祉施設大会
北九州大会

介護・福祉が未来を拓く

―老施協ビジョン2035―

2018 KITAKYUSHU

開催期日	平成30年11月20日(火)～21日(水)
開催地	福岡県北九州市（西日本総合展示場（新館）他）
主催	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 公益社団法人 北九州高齢者福祉事業協会
後援（予定）	厚生労働省、福岡県、北九州市、 社会福祉法人 全国社会福祉協議会、社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会 社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会、福岡県老人福祉施設協議会
参加対象	① 全国老施協会員施設・事業所の役員及び職員等 ② 老人福祉・介護事業に関わる行政、社会福祉協議会の役員及び職員 ③ その他本会が認めた者
参加費	会　員：15,000円（税込、資料代等） 非会員：30,000円（税込、資料代等）

テーマ

介護・福祉が未来を拓く

―老施協ビジョン2035―

趣　旨

2035年―我が国は、団塊ジュニア世代が65歳以上に差しかかる一方、劇的な労働人口不足となる「超少子高齢多死社会」を迎えます。そのような中、私たちは、国民の生活を守る安心安全の介護・福祉サービスを恒久的に維持していく使命をいかにして果たしていくべきでしょうか。

我が国は、これまで地域包括ケアシステムの構築を軸とする医療・介護提供体制の整備を進めてきました。その大きな方向性を示す平成30年度診療・介護報酬同時改定は、6年ぶりのプラス改定（0.54%）で決着したところですが、その流れを受けた「骨太の方針2018」では、経済成長と財政健全化を柱に社会保障費の抑制を含む歳出改革を重点分野としています。今後も厳しい制度改革は避けられず、更なる利用者負担の増加やサービス格差の拡大が危惧されます。

また、慢性的な人材不足は深刻化の一途をたどり、外国人材の活用、ロボット・ICT等テクノロジーによる生産性向上と業務効率化の推進が図られていますが、本来あるべき「介護・福祉」の姿、これからのケアなど、なすべき議論は山積したままです。

このように「介護・福祉」の本質が問われる今こそ、私たちは来るべき2035年へ先手を打ち続けなければなりません。その道標として、全国老施協は「老施協ビジョン2035」の策定に着手しました。介護現場の声を原動力として、ビッグデータ基盤の確立と客観的な分析に基づく経営戦略をもとに「介護・福祉」の未来を見据えた中長期的な戦略を掲げていく所存です。

第75回全国老人福祉施設大会（北九州大会）は、私たち介護・福祉の仲間がその本質に立ち一致団結することで、多様な課題への解決策を見出し、未来を拓く強い意志を共有・発信する場として開催するものです。

全体会 11/20火

11:30 12:30 13:00 13:50 14:30 15:10 15:30 17:00 18:00 18:10 19:00 21:00

受付 | オープニングアトラクション | 開会式典 | 行政報告 | 基調報告 | 休憩 | 記念講演 | 老施協ビジョン説明 | 大会宣言 次期開催県挨拶 | （移動） | 交流会

11:00	開場（介護機器展）	
11:30	受付開始	
12:30～12:50	オープニングアトラクション	北九州市消防音楽隊・カラーガード隊
13:00～13:50	**開会式典**	
13:50～14:30	**行政報告**	厚生労働省
14:30～15:10	**基調報告**	公益社団法人　全国老人福祉施設協議会
15:10～15:30	休　憩	
15:30～17:00	**記念講演**	

1963年生まれ、北九州市小倉出身。武蔵野美術大学を卒業。日本のマルチタレントで、イラストやデザインのほか、文筆、写真、作詞・作曲、俳優、演出家など、多分野で活躍。『東京タワー―オカンとボクと、時々、オトン―』は著者初めての長篇で、2006年本屋大賞を受賞。　また、主演を務めた今年６月公開映画「万引き家族」（是枝裕和監督）は、世界三大映画祭であるカンヌ国際映画祭（第71回）において、最高賞であるパルム・ドールを獲得。

イラストレーター・俳優・小説家

リリー・フランキー 氏

（聞き手：ivy care project　代表　高橋いくこ氏）

17:00～18:00	**老施協ビジョン2035説明**	
18:00～18:10	**大会宣言　次期開催県挨拶**	
18:10～19:00	移　動	
19:00～21:00	**交流会**	

分科会

11/21 水

分科会会場
第1分科会:リーガロイヤルホテル小倉　4階「ロイヤルホール」
第2分科会：西日本総合展示場（新館）1階「B展示場」

9:00	9:30	12:00	13:00	16:00
受付	分科会	休憩 昼食	分科会	

第1分科会　伴走型介護の追究 ―QOL向上に資するケアの実践―

分科会趣旨

「超少子高齢多死社会」の到来に備え、地域包括ケアシステムの構築が進められるなか、厚生労働省は10年ぶりに「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の改訂を行いました。
人生の最終段階における医療・ケアにおいても本人の希望にそった支援を受けることができるよう、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の取り組みを強調し医療・ケアチームと本人・家族等との情報共有の重要性を明確化したものです。

我々、介護従事者は支援を必要とする人々と最期まで伴走し、その人らしい暮らしの実現を念頭においたケアの実践を日々積み重ねています。

介護保険制度の理念である「自立支援」が機能改善へ偏重される中、本人・家族にとっての本当の豊かさについて考え、質の高い生活・質の高い死を実現する“真の自立支援”に向けたケアの実践を追究する場として開催いたします。

分科会企画

講演Ⅰ　**伴走型介護によるケアマネジメントの実践**
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

講演Ⅱ　**医学・医療から介護へ ～最期まで豊かな人生を支援する生活者としての視点～**
社会福祉法人 山陵会　理事長　**徳永　正義** 氏

シンポジウム　**地域で生きる･地域で看取る 施設・在宅を超えて**
～QOLからQODへ　―自分らしい暮らしを最期まで支援するために～

シンポジスト
社会福祉法人 山陵会　理事長　**徳永　正義** 氏
楽患ナース訪問看護ステーション　所長／医療コーディネーター　**岩本　ゆり** 氏
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所
福祉と生活ケア研究チーム　介護・エンドオブライフ研究　研究副部長　**島田　千穂** 氏

コーディネーター
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

第2分科会　これからの地域医療と介護・福祉連携

分科会趣旨

平成30年度介護報酬改定においては、配置医師との関わりを強める動きや、地域のリハビリテーション専門職の関与を求める加算等が創設され、医療と介護の連携が意識された改定となりました。しかしながら、人口動態、医療費・介護費の地域格差、医師の働き方や専門職種等、地域の医療・介護の提供体制の課題点も指摘されているところです。

次期改定や制度改正を踏まえた対策を講じるとともに、今後、福祉・介護を担う特別養護老人ホームが、より一層他機関との協調を深め、地域福祉への増進に寄与できるものとなるよう、研鑽を深めるものです。

分科会企画

情勢報告
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　特別養護老人ホーム部会　部会長　**櫻井　博規**

講演Ⅰ　**わが国の今後の社会保障のあり方を問う ～自治体2040構想研究会報告等を踏まえて（仮）～**
総務省

導入　**地域医療と介護・福祉連携を考える**

地域医療に関する施策の動向と取り組み
社会医療法人 弘恵会 ヨコクラ病院　在宅医療センター部長／医師　**橋爪　章** 氏

へき地医療と介護の連携
自治医科大学　地域医療学センター　地域医療学部門　教授　**小谷　和彦** 氏

地域医療情報ネットワークについて
公益社団法人 熊本県医師会　副会長　**金澤　知徳** 氏

都市部と地方の特性に応じた介護の経営戦略
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　介護保険事業等経営委員会 委員長　**桝田　和平**

ディスカッション　**これからの地域医療と介護・福祉連携に向けて**

パネリスト
社会医療法人 弘恵会 ヨコクラ病院　在宅医療センター部長／医師　**橋爪　章** 氏
自治医科大学　地域医療学センター　地域医療学部門　教授　**小谷　和彦** 氏
公益社団法人 熊本県医師会　副会長　**金澤　知徳** 氏
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　介護保険事業等経営委員会 委員長　**桝田　和平**

コーディネーター
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　常任理事・統括幹事　**瀬戸　雅嗣**

分科会会場

第3分科会：西日本総合展示場（新館）1階「C展示場」
第4分科会：北九州国際会議場　1階「メインホール」

第3分科会　未来型介護を拓く“人づくり戦略”

分科会趣旨

全産業において「人の力（働く力）」の確保、定着、育成が最重要課題となっている現状において、課題先進分野である介護における「人づくり」について、量だけでもなく質だけでもない未来型介護観をもった人材を増やしていかなければなりません。

日本を元気にする原動力となる介護人材のあり方、"人づくり戦略"について考えます。

分科会企画

行政報告

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室

講演Ⅰ

職員が最大限の能力を発揮する現場マネジメント ～中核人材の育成とその可能性について～

東京経済大学　経営学部　教授　原口　恭彦 氏

講演Ⅱ

介護人材開国10年 ～外国人介護士との協働から共生へ～

特別養護老人ホームやさと　研修室長兼EPA担当相談員　田中　良和 氏

シンポジウム

未来型介護を拓く「人づくり」戦略
～あらゆる人が活躍できる介護現場の構築に向けた解決の道を探る～

シンポジスト
特別養護老人ホームながまち荘　EPA介護福祉士候補者　アグス　トリヤント 氏
社会福祉法人 青山里会　人事部長　三瀬　正幸 氏
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　介護人材対策委員会　委員長　西岡　修 氏

コーディネーター
株式会社ミーティング　代表取締役　三村　恵三 氏

第4分科会　保健事業・介護予防と地域づくり

分科会趣旨

平成30年度改定は、まさに医療と介護の連携が色濃く反映された改定となりました。通所介護事業所においても、BathelIndexの活用や生活機能向上連携加算といった、身体機能、理学療法の視点が重要視されるほか、栄養改善加算に代表されるように、いかに利用者へのケアの質を高めるかの観点に沿って、多様な改定がなされました。その要である居宅介護支援事業所には医療的情報を迅速にかつ正確に対応するスキルが求められる一方で、AIによるケアプランの自動化、医療分野との情報連携も取りざたされています。また、政策的には、保健事業と介護予防事業の一本化も議論されているところであり、地域に住む高齢者がなるべく長期にわたって元気でいていただけるよう、我々が提供する在宅サービスはどのようなサービス展開、継続を考えていくべきか。その可能性の追求に向け、開催いたします。

分科会企画

情勢報告

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　在宅サービス委員会　委員長　武藤　岳人

講演Ⅰ

居宅介護支援から繋ぐ医療介護連携

社会医療法人社団 光仁会　第一病院　医療福祉連携室　室長兼経営企画室　網代　祐介 氏
笛吹荘居宅介護支援事業所　管理者　茄子川　修 氏

ディスカッション

AI×ケアプランとその先へ

パネリスト
株式会社シー・ディーアイ　代表取締役社長　岡本　茂雄 氏
株式会社エス・エム・エス　執行役員　事業開発本部長　福田　升二 氏
社会医療法人社団 光仁会　第一病院　医療福祉連携室　室長兼経営企画室　網代　祐介 氏
笛吹荘居宅介護支援事業所　管理者　茄子川　修 氏

コーディネーター
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　在宅サービス委員会　幹事　塚本　恵里香

講演Ⅱ

健康寿命の延伸に向けた取り組み

経済産業省　次世代ヘルスケア産業課

ディスカッション

～通いの場からつくる健康寿命の延伸～

パネリスト
栄養を幸せの力に　一般社団法人 WAVES Japan　事務局長　久連山　敦 氏
寝屋川市におけるC型事業の展開　株式会社TRAPE　代表取締役　鎌田　大啓 氏
豊見知市における転倒予防 ―特養におけるフレイル・インデックスを用いた事業の展開―
特別養護老人ホームすみれリハビリテーション課　松尾　勇比古 氏
静岡県における保健事業・介護予防事業に関する取り組み（仮）　静岡県健康福祉部
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　在宅サービス委員会　委員長　武藤　岳人

コーディネーター
株式会社ウエルビー　代表取締役　青木　正人 氏

分科会

11/21 水

分科会会場
第5分科会：リーガロイヤルホテル小倉 3階「エンパイアルーム③」
第6分科会：リーガロイヤルホテル小倉 3階「エンパイアルーム①②」

第5分科会　軽費・ケアハウスの次なるステップ ～事業継続に向けて～

分科会趣旨

軽費老人ホーム、ケアハウスにおいては、契約により入所でき、安心した見守りがある高齢者福祉施設でありながら、財政のひっ迫により、事業継続がおぼつかない実態が生じています。一方で、法人としての地域公益活動や地域共生社会等の言葉に代表されるように、期待される役割は高まるばかりです。

現実には身寄りがなく、所得の低い高齢者が住まわれている実態や地域の高齢者人口の増の一方、生産年齢人口の減少等の実情に応じ、どのように事業継続を図っていくべきか。様々な視点から研鑽を深めます。

分科会企画

情勢報告
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　軽費老人ホーム・ケアハウス部会　部会長　**藤井　陽子**

講演Ⅰ
ケアハウスにおける収支構造と経営課題の解決に向けて
独立行政法人 福祉医療機構 経営サポートセンター　シニアリサーチャー　**千葉　正展** 氏

講演Ⅱ
社会福祉法人としてのガバナンスとコンプライアンス
EY新日本有限責任監査法人　公認会計士／パートナー　**秋山　修一郎** 氏

講演Ⅲ
介護・福祉における「働き方」の留意点
井伊・真下法律事務所　弁護士　**真下　美由起** 氏

ディスカッション
軽費老人ホームにおける利用者のための事業継続を考える
パネリスト
独立行政法人 福祉医療機構 経営サポートセンター　シニアリサーチャー　**千葉　正展** 氏
EY新日本有限責任監査法人　公認会計士／パートナー　**秋山　修一郎** 氏
井伊・真下法律事務所　弁護士　**真下　美由起** 氏
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　軽費老人ホーム・ケアハウス部会　副部会長　**永原　澄弘**
コーディネーター
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　軽費老人ホーム・ケアハウス部会　幹事　**中川　勝喜**

第6分科会　養護老人ホームへの期待とこれからの生活支援

分科会趣旨

無届有料老人ホームにおける事件は記憶に新しいところです。サービス付き高齢者向け住宅、高齢者の住まいには様々な類型がでてきている一方で、その住まう環境や、生活支援は不十分なものも多く、高齢者福祉そのものを毀損してしまいかねない実態があります。他方、養護老人ホームは地域福祉のニーズに応じ、ご本人の多様な生活背景や環境等にも配慮しつつ、入所者の尊厳を保持し、社会性を損なうことのないよう支援を深め、今日に至っています。

今後、高齢者の増とともに養護老人ホームへのニーズは益々高まっていきます。その時代に向け、我々に何ができるのか。次の時代に向け、研鑽を深めるものです。

分科会企画

情勢報告
養護老人ホーム措置控え対応Action３
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　養護老人ホーム部会　部会長　**大山　知子**

講演Ⅰ
住宅セーフティネット事業について
国土交通省 住宅局 安心居住推進課　企画専門官　**大島　敦仁** 氏

講演Ⅱ
居住支援・生活支援に向けて ～仕事つき住宅という選択肢～
社会福祉法人 伸こう福祉会　理事長　**足立　聖子** 氏

講演Ⅲ
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムと生活支援とは
厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課

ディスカッション
高齢者福祉のその先へ ～これからの養護老人ホームへ～
パネリスト
厚生労働省 老健局 高齢者支援課　課長補佐　**小林　靖** 氏
明治学院大学　学長特別補佐・名誉教授　**河合　克義** 氏
城西国際大学　福祉総合学部　福祉総合学科　教授　**清水　正美** 氏
東海大学　健康学部　健康マネジメント学科　**中野　いずみ** 氏
社会福祉法人 伸こう福祉会　理事長　**足立　聖子** 氏
養護老人ホームライトホーム　施設長　**中山　泰男** 氏
コーディネーター
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会　養護老人ホーム部会　幹事　**平岡　毅**

会場マップ

● 全体会会場

西日本総合展示場（新館）　〒802-0001　福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目8-1　TEL：093-511-6848

出発地	所要時間
北九州空港から	北九州空港……小倉駅……西日本総合展示場（新館） （空港シャトルバス/約35分）　（徒歩５分）
福岡空港から	福岡空港……博多駅……小倉駅……西日本総合展示場（新館） （地下鉄空港線/約６分）　（JR山陽新幹線/約15分）　（徒歩約５分）

● 分科会会場

西日本総合展示場（新館）	〒802-0001　福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目8-1　TEL：093-511-6848 ＜小倉駅より徒歩５分＞
北九州国際会議場	〒802-0001　福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目9-30　TEL：093-541-5931 ＜小倉駅より徒歩10分＞
リーガロイヤルホテル小倉	〒802-0001　福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目14-2　TEL：093-531-1121 ＜小倉駅より徒歩３分＞

北九州市内広域マップ

ホテル番号	ホ テ ル 名
❶	リーガロイヤルホテル小倉
❷	コンフォートホテル小倉
❸	JR九州ホテル小倉
❹	東横イン小倉駅新幹線口
❺	ステーションホテル小倉
❻	東横イン小倉駅南口
❼	西鉄イン小倉
❽	ダイワロイネットホテル小倉駅前
❾	ホテルテトラ北九州
❿	ホテルクラウンパレス小倉

ホテル番号	ホ テ ル 名
⓫	ホテルクラウンヒルズ小倉
⓬	北九州第一ホテル
⓭	ホテルニュータガワ KOKURA
⓮	西鉄イン黒崎
⓯	ホテルクラウンパレス北九州
⓰	プレミアホテル門司港
⓱	ホテルルートイン門司港
⓲	コンフォートホテル博多
⓳	エスペリアホテル博多

プラント夜景

平尾台

戸畑祇園

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
(Japanese Council of Senior Citizens Welfare Service)

〒102-0093 東京都千代田区平河町２丁目７番１号　塩崎ビル７階
TEL：03-5211-7700　FAX：03-5211-7705
E-mail：js.jimukyoku@roushikyo.or.jp
ホームページアドレス　http://www.roushikyo.or.jp